

## 第2章 20年を振り返って、草創期の方と歴代会長の思い出

### 2-1

### 20周年記念に思う

第1グループ 土・日曜 今村英男

(第1グループ会長：平成6年8月～同11年4月)

「炉端の会」の皆さん創立20周年をむかえ、その活動に対し、川崎市から「文化賞」の受賞おめでとう御座います。最近では会員数が発足時の5倍250名となり活動範囲も古民家の床上公開にとどまらず、園内案内や各種イベントとの協働、さらにはインターネットの「ホームページ」立ち上げによる発信力の強化など、活動基盤の強化充実を図られていることに敬意を表するとともに、民家園のよきパートナーとしてますます発展されることを祈念いたします。

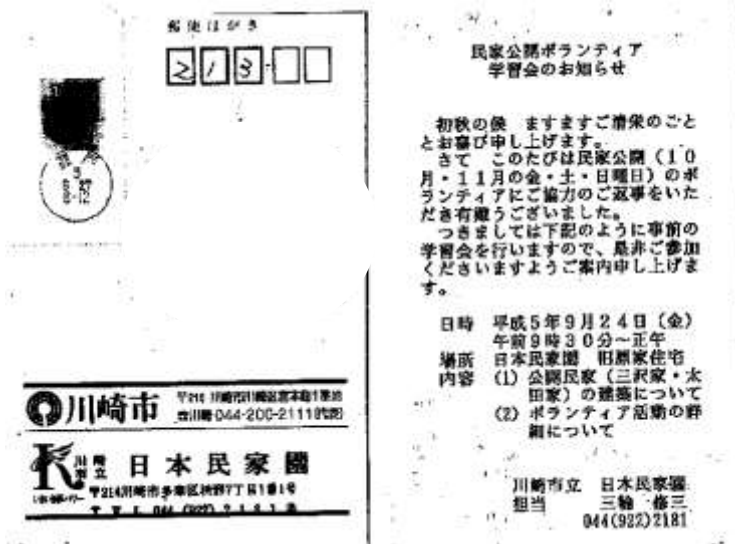
さて、ここからは20年前に遡り、私が民家園のボランティア活動に関わった頃のものを整理し紹介したいと思います。

### 1 民家園からの1枚の「はがき」からはじまる

「民家公開ボランティア学習会のお知らせ」登戸局平成5年8月27日(消印)は、平成6年8月26日ボランティア「炉端の会」が、原家2階で会員50名により設立総会が開催された日の1年前でした。

こうして見ると前述の「はがき」によるボランティア(以下仮ボランティア)は「炉端の会」発足の準備段階という位置づけになります。参加したのは市の生涯学習事業団と民家園共催の市民アカデミープレ講座「民家—ハレとケのフォーラム」(平成5年5月～7月)終了時、民家園側からボランティアの呼びかけがあり、私を含め14名(男性4名女性10名)がボランティア学習会を受講しました。

以下この講習会終了後の床上公開は次のとおりでした。



- ① 「平成5年秋の民家園祭り」に合わせたの床上公開・平成5年10月1日～同年11月27日17日間毎週金・土・日曜日の3日間（旧三澤家10月・旧太田家11月）  
公開日毎に3～4名延76名
- ②雪囲い展示 平成5年12月5日～平成6年3月27日の日曜日  
旧山田家・旧菅原家 17日間 公開日毎に2名延34名
- ② 床上公開 平成6年4月17日～同年6月5日の各日曜日 旧三澤家  
12日間 公開日毎に2名延24名  
なお大型連休中の5月5日が私の当番日（2名）で、「朝から続々と見学者がおとずれ計数器のカウントも2000人を超え、一時は床上が立錐の余地もなく、対応する暇もない状況に、うれしいやら驚くやらの1日でした。
- ④民家園講座応援 平成6年6月11日～同7月9日旧作田家 土曜日7日間  
講座受付・資料配布・囲炉裏の火焚き・公開日毎午前・午後各2名延28名

以上のように仮ボランティアによる床上公開は「炉端の会」発足前の1年間に、床上公開延75回活動人員延136人に及び、本格実施時には各班（火～金の4班と土・日の1班計5班）に、これら経験者を配置し、新会員とともに協働し火焚きなどの実務を体得して貰った結果、新組織による床上公開は短期間に定着することができました。

## 2 「炉端の会」生みの親・職員 三輪修三氏について（平成10年4月館長）

民家園の仮ボランティアから会員50名の「炉端の会」という新組織を立ち上げを積極的に進められ、現在250名を擁する会に発展する基礎固めをされた「炉端の会」の生みの親、民家園職員の三輪修三氏についてご紹介します。

氏は川崎市教育委員会の学芸員として、市域の史跡・文化財の発掘・調査・研究・市史の編纂、また市民ミュージアム・民家園における博物館業務・川崎市民アカデミーの講師（川崎学）のほか、川崎の郷土資料に基づく著作の刊行などにより、幅広く川崎地域史の啓蒙活動をされ、現在も元気で多摩区にお住まいです。

このような豊かな学識ならびに博物館活動の経験をふまえ、「炉端の会」の立ち上げにあたって、会員の小グループの見学会・毎年の団体見学会参加や案内役、ときには飲み会・ケーションへの参加など会員との交流を重ねられ、会員が楽しくボランティア活動に参加する雰囲気づくりに積極的に取り組まれ、そうした気風の定着と会員の努力、さらに炉端の魅力、また民家園全職員のご協力により、和気あいあいの「炉端の会」が誕生したのだと思います。

ここで語るのは、三輪氏に、仕事で当然のことだとお叱り受けることです。しかし当時の全会員の気持ちだと思いましたので、敢えて書くことにいたしました。

た。こうしたなかで、会長として「炉端の会」の誕生の、お手伝いをさせて頂いたことに、いまは感謝の気持ちで一杯です。

以上いろいろと述べましたが、なにか手前味噌的な話になり恐縮しています。

(参考)

のほろろ市政アカデミー  
25年度講師紹介

<u>三輪 修三</u>	
肩書：	歴史研究家
経歴：	国学院大学文学部史学科卒業 塩釜神社付属博物館学芸員 川崎市民ミュージアム学芸員 川崎市立日本民家園学芸員、同団長を経て退職 東京都立大学、川崎市立看護短期大学非常勤講師
主な著書：	『東海道川崎宿とその周辺』（文献出版、1995年） 『川崎——歴史と文化』（多摩川新聞社、1995年） 『多摩川——境界の風景』（有隣堂、1988年） 『古刹影向寺』 『日本仏教美術史覚之書』
アカデミーでの出講：	15前期：学び・歩くかわさき（川崎学）講座、歴史（川崎学）講座 10前期：歴史（川崎学）講座 09後期：歴史（川崎学Ⅰ）講座 09前期：歴史（川崎学Ⅰ）講座



1998年（平成10年）1G 京都 平等院見学

### 3 「炉端の会」名づけの由来など

- ① 平成6年1月21日 園との新年会が開かれ仮ボランティア組織化の話し合いで、名前についてメンバーの高橋さんから一囲炉裏は火があって、はじめて「炉端」になる一との発言で決りました。(国語辞典・ 囲炉裏は火を燃やす装置)
- ② 会員の構成ですが、スタート時50名で男性4:女性6、現在は250名で男性6:女性4と逆転しているようです。年齢は?
- ③ 時期は忘れましたが、囲炉裏の薪が不足し家の廃材を使用したことがあります。そうすると煙や匂いが一変し、床上公開の魅力が半減することを経験しました、やはり薪は、ナラ・クヌギ・ケヤキなどが、炉端にはピッタリだと強く感じました。
- ④ 別添、荒川さん(床上公開活動21年)の「神奈川新聞への寄稿記事・民家の保存手伝い20年」を御覧ください。

以上

#### ■民家園の保存手伝い20年

主婦 荒川 洋子 72 (川崎市)

日本民家園(多摩区)で市民アカデミープレ講座を受講したところ、修了生に野外博物館を守る手伝いをしないかとの呼び掛けがあった。20人近くが快諾。早速活動を始め、「炉端の会」との名称で会を結成したのは20年前の事である。

週1回、古民家の土間や床拭き、いろりにまきをくべ、来客に簡単な説明をする活動だった。一期一会のお客さんのお相手をしているうちに、故郷恋しくなじめなかった川崎に、私はしっかり根を下ろしてしまった。

結成1年目に園では正式な民家園ボランティア養成講座を開催し、会員は50人に膨らんだ。仲間が増えると、個々の趣味や特技、スキルも多彩で活かす道も多く、活動分野は広がった。イベントは来客に喜ばれる居場所、癒しの場となり、博物館は生き返った。

一方、私は仲間にも刺激され活動は枝葉を伸ばし、今や区役所のまちづくり協議会メンバーとしても活躍している。民家園は私のボランティア活動の原点。「炉端の会」会員は250人以上になり、2014年度の川崎市文化賞を受賞した。

神奈川新聞 2015年1月27日 より転載